

浜松市 ひきこもり支援体制 の現状について



浜松市ひきこもり地域支援センター
(浜松市精神保健福祉センター)



出世大名 家康くん



©浜松市

©浜松市

浜松市精神保健福祉センター

平成19年4月に開設された、こころの健康に関する総合技術センター

精神保健福祉 推進事業

- 依存症に関する相談、がん患者のご家族への相談などの相談
- 精神障がいを理解するための研修会
- 家族教室(うつ病・依存症・摂食障害)

自殺対策事業

- 自死遺族相談・自死遺族わかちあいの会
- 子どものためのストレスマネジメント
- 思春期メンタルヘルスリテラシー事業
- 中山間地域訪問相談支援事業 ・外国人のメンタルヘルス

ひきこもり 対策推進事業

- ひきこもり相談
- 家族教室
- ひきこもり地域支援センター運営

法定業務

- 精神医療審査会事務
- 精神保健福祉手帳判定会事務



ひきこもり地域支援センター

平成21年にひきこもり地域支援センター設置運営事業により、都道府県・指定都市にひきこもり地域支援センター開設可能となる。

⇒ 平成30年4月現在、全国67すべての自治体に設置

概要

- ひきこもりに特化した相談窓口
- ひきこもりの状態にある本人や家族がまずどこに相談したら良いかを明確にし適切な支援に結びつきやすくすることが目的。
- ひきこもり支援コーディネーターが本人や家族の来所相談や訪問支援を行い、自立への支援を行う。
- ひきこもりに関する普及啓発や関係機関との連携を図る。地域におけるひきこもり支援の拠点！

※ 浜松市 平成21年7月1日開設

浜松市のひきこもり支援体制

浜松市ひきこもり地域支援センター

所管：精神保健福祉センター

精神保健福祉
センター
(特定相談として実施)

<役割>

- ・一次相談
- ・アセスメント
- ・家族教室
- ・支援研修会
- ・ひきこもり支援
ネットワーク会議

ひきこもり
サポートセンター
こだま
(NPO法人E-JAN委託)

<役割>

- ・訪問相談等
- ・コミュニティスペース
- ・訪問ケース家族
交流会
- ・普及啓発活動
- ・企画検討委員会

地域若者ステーションはままつ

所管：産業総務課

(NPO法人E-JAN委託)

<役割>

- ・就労に向けたキャリアカウンセリング
- ・心理カウンセリング
- ・SST
- ・職場見学

就労以外の相談機関

訪問支援等の継続

ハローワークなど

学校など

相談発見・誘導期

参加期

自立期

浜松市精神保健福祉センター

(一次相談・当事者グループ)



当事者グループ「ゆきかき」

月2回・水曜日・午後

(会場は精神C・運営はこだま)



ひきこもりサポートセンター こだま (訪問支援・居場所支援)

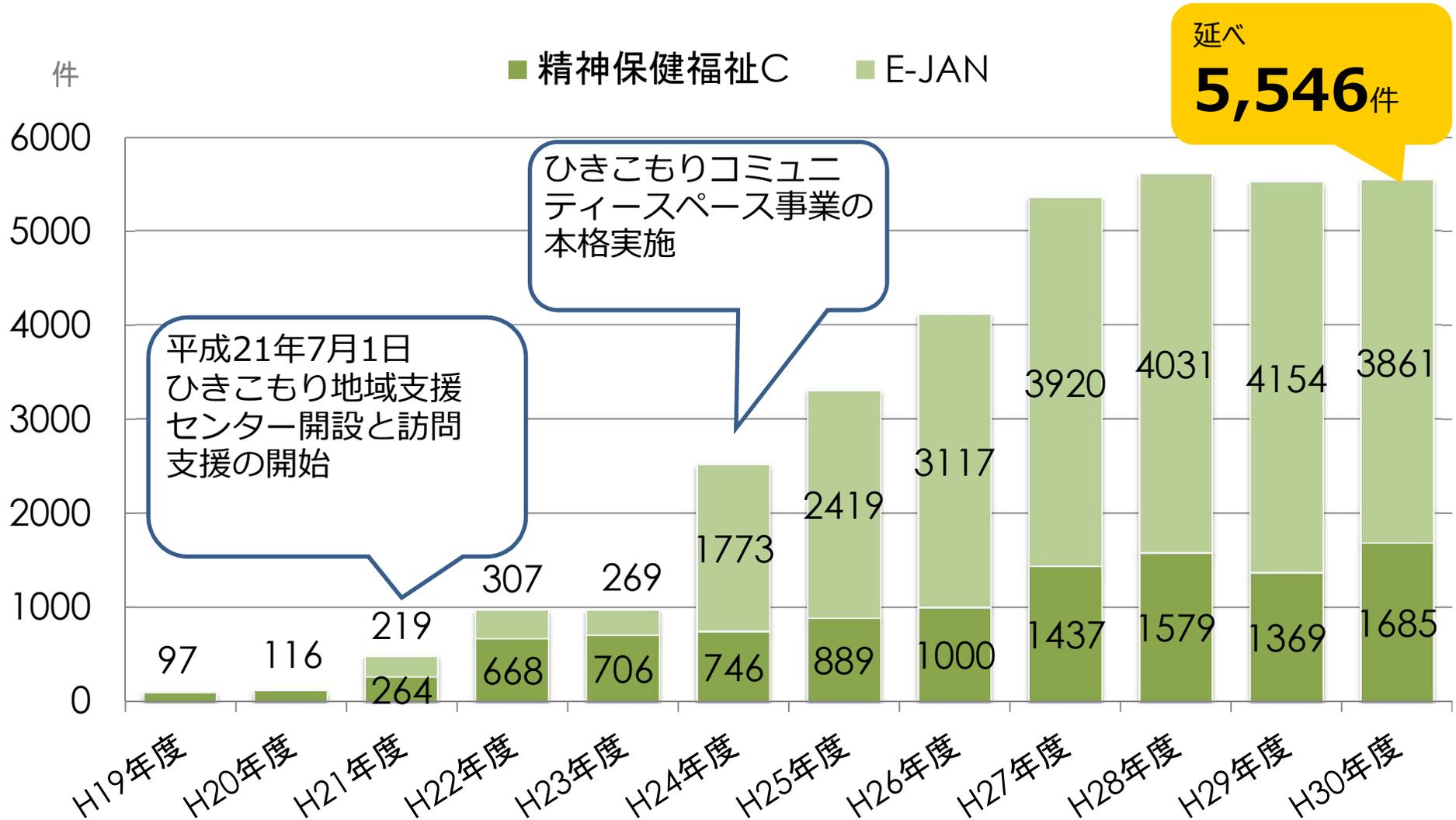


コミュニティースペース「こだま」
週3回 (火・木・金) 午後



ひきこもり地域支援センター

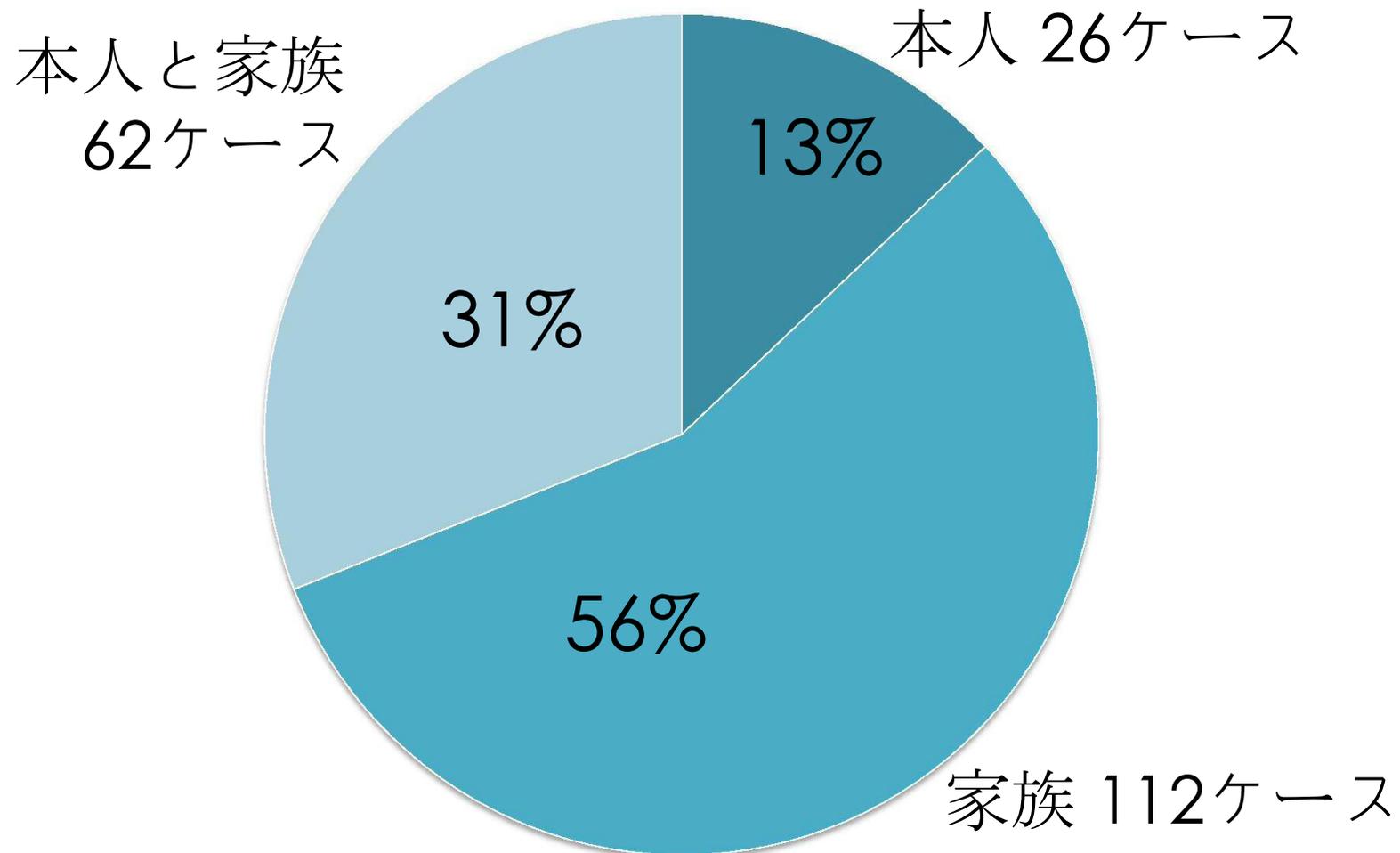
ひきこもり相談支援件数の推移 (H19年度からH30年度)



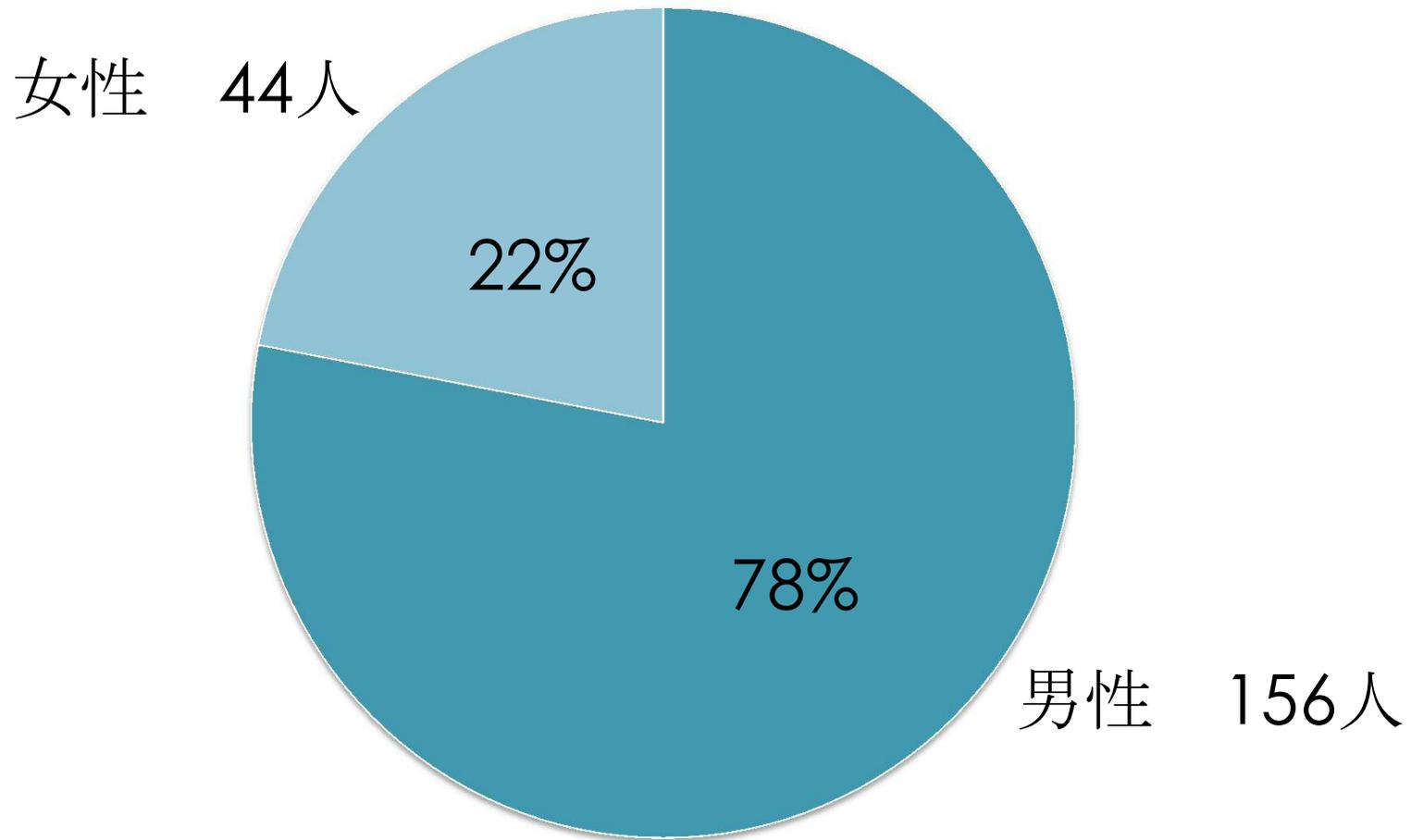
精神保健福祉センター 相談支援件数推移

年度	来所相談	訪問	電話相談	支援件数	相談者 実人数
平成28年度	1,550	29	—	1,579	178
平成29年度	1,343	26	—	1,369	182
平成30年度	1,484	29	177	1,685	200

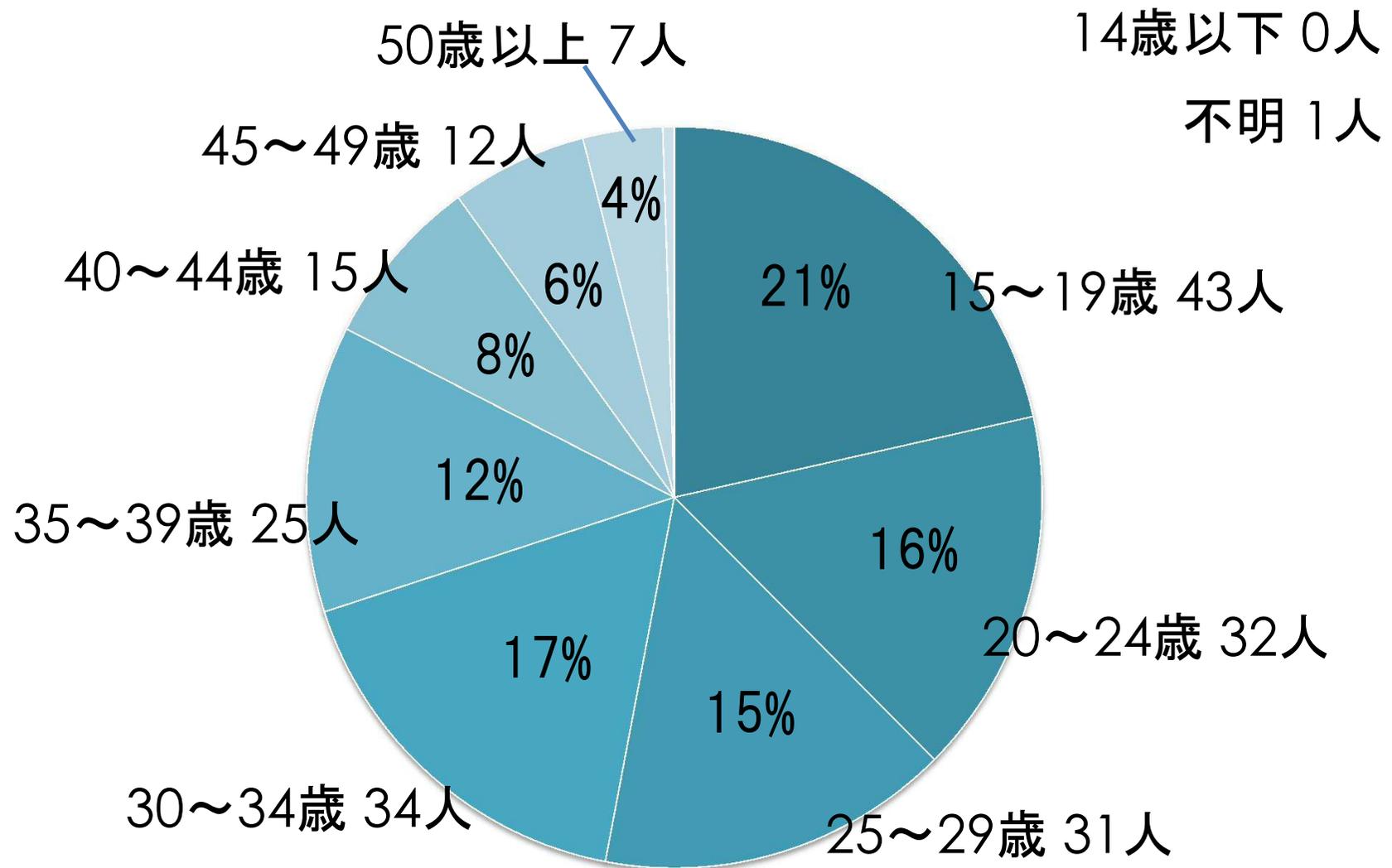
平成30年度 精神保健福祉センター相談者 来談者の内訳



平成30年度 精神保健福祉センター相談者 当事者の性別



平成30年度 精神保健福祉センター相談者 当事者の年齢内訳 (初回相談時)



相談者対象者の傾向（H30年度）

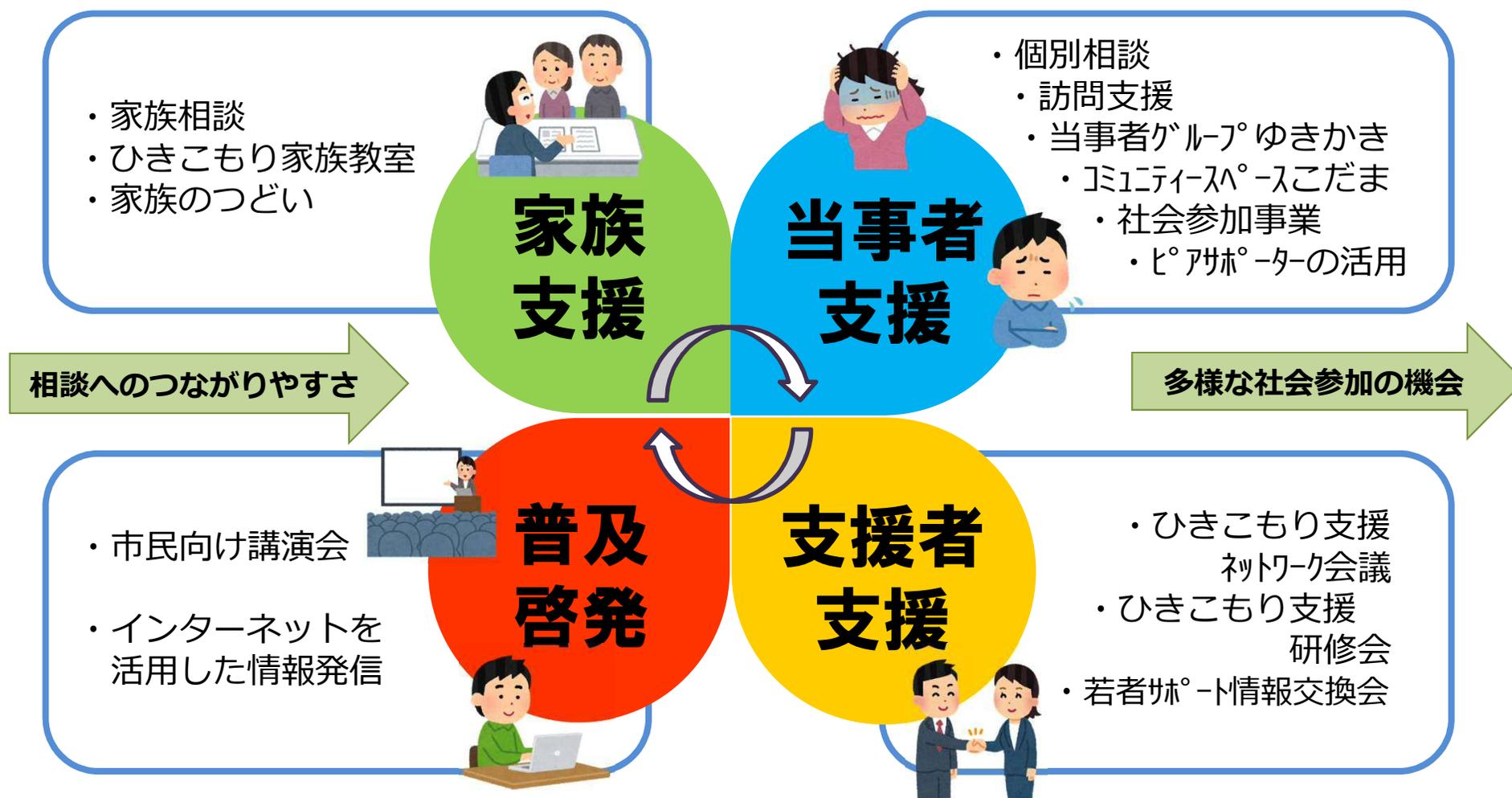
- 男女比は 8:2
- 対象者の年齢内訳（5才区分）では、15～19歳が43人（21%）が最多。

背景：H30年度に「10代の不登校ひきこもりに悩んでいるご家族のための教室」を開催。
若年層のひきこもりの問題をもつ相談者が増加。

- 40代以上の対象者は34名（18%）
- 対象者の最低年齢は15歳、
最高年齢は56歳で、
幅広い層にニーズがある。
- 平均年齢は29.5歳



ひきこもり対策推進事業イメージ



- ★多様で長尺な支援メニューと多機関との連携により、途切れのない相談支援体制を構築。
- ★ひきこもり相談への入口を周知するとともに、当事者の社会参加につながる出口の数やバリエーションを増やしていくことで、多くのひきこもり当事者の社会参加を実現。

・関係づくり

まずは、ご本人が興味のあること、好きなことなど、雑談や時にはゲームや散歩をしながら、安心して話せる場として認識してもらう

・状況把握

日々の生活の様子、生活リズムなど

・心理検査（必要に応じて）

ご本人の特性や対人関係における傾向など
ご自身が自己理解をするための目的で実施



訪問支援（アウトリーチ）

当事者 支援

なかなかご本人が来所できない場合・・・

- 家族からご本人の状態について十分なアセスメントをした上で訪問支援を検討。
- あらかじめご本人に訪問することを告げた上で訪問。
(家族から訪問者について伝えてもらう、お手紙を書くなど)
- 本人がひきこもることで保っている部分があることも念頭において訪問する。(安心・安全の保障)
- 緊急性がない限りは、家族間の関わり方
(コミュニケーション方法や交流のあり方等)
を見直すことを先行する。
- 医療受診が必要な場合は、関係機関と連携して対応。
- 訪問を実施した後も、家族相談など継続した支援を継続。

ひきこもりピアサポーターの活用

当事者 支援

- サポーター養成講座修了生：8名
- 活動の場

家族教室や講演会等での当事者体験発表

社会体験活動での補助スタッフ

当事者グループの運営補助

など

社会体験活動（これまでの事例）

当事者
支援

株式会社ISK

カートの整備、カート場の清掃作業
終了後、カートの運転もさせてもらえる

フラワーパーク

園内の草取り、
花柄摘み、
苗の植え替え
（園芸療法）

せいぶぽいんと

中古本のクリーニング、書き込み破損のチェック、
Yahoo!オークションへの出品業務など

連携で支える地域づくり

浜松市のひきこもり支援ネットワーク

発見・相談

相談支援

社会参加

浜松市ひきこもり地域支援センター

浜松市精神保健福祉センター

ひきこもりサポートセンターこだま

H28年度
追加

自立支援相談機関

コミュニティソーシャルワーカー

ひきこもり 家族会

教育委員会
SSW

発達障害者
支援センター

地域若者サポートステーション

県立高等学校
定時制

障害者相談支援事業所

障害者多機能型事業所

若者相談
支援窓口

市役所
障害保健福祉課

医療機関
(児童思春期・訪問)
(成人期・訪問)

ひきこもり支援の目指すところは
地域の中で孤立する人を
できるだけ減らしていくこと

